

甘 楽中男子駅伝部 関東大会で健闘！



前列左から 清水翔和さん(1年)、高橋 歩さん(2年)、三木陽太さん(2年)、
茂原町長、茂木優斗さん(3年)、茂木煌気さん(2年)、谷川航太
さん(2年)
後列左から 近藤教育長、森平副町長、吉田 惇さん(2年)、松井翔汰さん(1年)、
長岡倭真士さん(2年)、飯塚真琴校長、佐俣樹範教諭

第29回関東中学校駅伝競走大会が12月5日に茨城県ひたちなか市で開かれ、甘楽中学校男子駅伝部が出場しました。

1都7県を代表する33の強豪校が集まった大会で、選手は全力で自分の走りを見せ、24位(6区間17.86km・57分58秒)と健闘しました。

また、大会前日には、大会出場報告会が役場で開かれ(左写真)、一人ひとり力強い決意を述べました。大きな舞台で貴重な経験を積んだ若い選手たちのさらなる活躍が期待されます。

あと一步踏み出す勇気を いじめ防止子ども会議 「互いに支え合う人間関係をつくるために私たちにできること」

甘楽町いじめ防止子ども会議が12月2日、福島小学校図書室で開かれました。これは、町内小中学校のいじめ防止への取り組みを発表し合うことで、自校の取り組みにいかすとともに、いじめ問題に向けた意識の高揚といじめの未然防止を図るための行動につなげることを目的としたものです。

今年は新型コロナウイルス感染症対策のため規模を縮小し、会議形式で各校の代表児童生徒が取り組みを発表しました。会場校の福島小では、4年生以上の児童が教室で映像を見ながら発表を聞き、その後、各校の代表は班別で意見交換を行いました。



代表児童生徒による発表(写真は新屋小学校)



「いじめの見分け方といじめに気付いた時にできること」についての班別協議

令和2年度甘楽町いじめ防止啓発標語コンクール優秀作品(敬称略)

- | | |
|--------------------------------|-------------|
| 『やさしさで みんなの心に 虹かけよう』 | 森田望花(小幡小6年) |
| 『やさしさが 重なり合って 笑顔さく』 | 秋山結愛(福島小4年) |
| 『気付いてよ！ 今の言葉、その行動 我慢しているこの気持ち』 | 松本一真(新屋小6年) |
| 『やめようよ』 その声そろえば 大きな力』 | 石川優月(甘楽中2年) |

母子保健で功労者知事表彰 堀口さん



令和2年度保健事業等功労者知事表彰式が11月10日に県庁で開かれ、堀口久美子さん(天引)が母子保健の部門で表彰されました。

堀口さんは、昭和59年に助産師免許を取得後、県内の病院に助産師として勤務しながら、県助産師会の事業にも積極的に取り組まれました。県民の皆さんが希望を持って子育てをし、生まれてきた子どもが健やかに成長できるように、長年にわたり母子保健事業の推進に尽力されました。また、同会の地区支部理事を務め、会の発展にも寄与し、近年では、無料電話相談の相談員や甘楽町などの産後ケア事業にも従事し、地域に根ざした助産師として日々精励されています。

農業の発展に向けて活躍を期待 森田さん・土屋さん

令和2年度県農業経営士、農村生活アドバイザーなどの認定証書交付式と第56回県優良青年農業者表彰式が11月27日、富岡合同庁舎で開かれました。

町からは、森田清子さん(善慶寺)が農業経営や農村生活の向上に意欲的に取り組む女性農業者として「農村生活アドバイザー」に認定され、土屋善史さん(国峰)が活力ある農業・農村の確立に取り組み、優れた成果をあげている青年農業者として「優良青年農業者表彰」を受賞しました。

森田さんは酪農、土屋さんはキュウリとナスを主要作物として農業に従事しており、農業の発展と魅力ある農村社会を築くための担い手として活躍が期待されます。



森田さん



土屋さん

蕎麦づくり入門の集大成 蕎麦打ち体験



大きな包丁を使って蕎麦切りに挑戦

秋畑那須地区のちいじがき蕎麦の里「蕎麦づくり入門」の最後の作業となる蕎麦打ち体験が12月12・13日、甘楽ふるさと館で行われました。蕎麦オーナー約100人が参加し、種から育てた蕎麦粉を使い、地元蕎麦打ち名人の指導のもと腕を振るいました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、参加者は一定の距離を取りながら蕎麦を打ち、打った蕎麦はお土産として持ち帰りました。また、作業後は同館内のせせらぎの湯で疲れを癒しました。

倉茂利幸さん(善慶寺)は「蕎麦が大好きな孫と参加でき良かったです。町内に住んでいても初めて知ることや体験することばかりでとても勉強になりました」と話されました。

三 カンで子どもたちを元気に 吉田さん

吉田さん(左)からミカンを受け取るひまわり組(1・2歳児)の園児たち



かんら保育園に12月4日、吉田藤太郎さん(白倉)から約1,000個のミカンが届けられました。

畑が荒れないようにとミカンの木を植えて管理している吉田さんは、収穫したミカンをここ数年、毎年園にプレゼントしています。

「風邪をひかないようにたくさん食べて」と吉田さんが声を掛けながらミカンを手渡すと、園児たちは「大きなミカンだね。ミカン大好き」と喜び、「ありがとうございました」とお礼の言葉を伝えました。

吉田さんは「シカによる被害もあったが、今年もミカンを届けられて良かった」と話されました。

大 好きな曲に合わせて 保育園おゆうぎ会

かんら保育園のおゆうぎ会が12月5日に町文化会館で開かれ、密を避けるため、時間を分けて発表を行いました。

園児たちは、この日のために一生懸命練習してきた遊戯などを保護者の前で披露し、手作りの衣装でのびのびと演じる愛らしい姿に、会場からは大きな拍手が送られました。



花 で町を明るく コンテナガーデン

生活改善グループの皆さん



町生活改善グループ連絡協議会(折茂久美子会長・はこべの会、天引婦人の家グループ、裏根グループが所属)の会員が12月17日、町内施設に設置しているプランターに花の苗の植え替え作業を行いました。

今回は、冬を鮮やかに彩るハボタンやビオラを寄せ植えし、道の駅甘楽や甘楽ふるさと館など9カ所に届けました。

折茂会長は「1年ぶりに実施できて良かったです。寒さに強い花を寄せ植えしたので、長く楽しめると思います」と話されました。